

注目ポイント！

- 作付面積日本一の「菜の花」を最大限に活用し観光地へ。
- 住民、生産者、産業団体、行政が協働して観光振興を推進。

菜の花フェスティバル客数が約4,500人から約26,000人に！
(平成3年) (平成18年)



菜の花が咲き誇る風景

◇◇ コラム ◇◇

野坂氏が町観光協会会長として就任以来、観光振興策の一つとして菜の花フェスティバルの開催、「日本一の菜の花サポーター」の育成、また平成16年12月に町長就任以降も秋田県能代市(旧二ツ井町)や大館市(旧田代町)との観光・スポーツ交流を展開している。



前・観光協会会長
(現・横浜町長)
野坂 充氏

これまでの経緯

- | | |
|-------------|--|
| 平成 3年(1991) | 第1回菜の花フェスティバルが開催される。 |
| 平成 6年(1994) | 地場産菜種油「なたね一番搾り」、地酒「菜の花紀行」を発売する。 |
| 平成 8年(1996) | 横浜町の景観が「美しい日本のむら景観コンテスト」農林水産大臣賞を受賞する。
菜の花フェスティバルを通じ秋田県能代市(旧二ツ井町)との交流が始まる。 |
| 平成 9年(1997) | 観光協会が、ボランティアガイド「菜の花サポーター」を結成する。 |
| 平成10年(1998) | (社)日本観光協会主催「第5回優秀観光地づくり賞」を受賞する。 |
| 平成11年(1999) | 町物産館「菜の花プラザ」(道の駅よこはま)がオープンする。 |
| 平成13年(2001) | 菜種油を活用した燃料製品開発を主とする「菜の花エコプロジェクト構想」が策定される。 |
| 平成14年(2002) | 「菜の花トラストin横浜町」が発足し「休耕地を菜の花畑に大変身プロジェクト」に取り組む。
菜の花エコプロジェクトネットワーク主催による「第2回全国の菜の花サミット」が横浜町で開催され、全国から約300名が参加。 |
| 平成18年(2006) | 横浜町特産品加工センターが完成する。 |

主な取り組み

菜の花フェスティバルinよこはま

日本一の作付面積を誇る菜の花畑を活用した町おこしとして、住民、生産者、産業団体、行政が協働で実行委員会を組織し「菜の花フェスティバルinよこはま」を菜の花畑のど真ん中で開催。

菜の花畑に通路を刈り込んだ大迷路や「菜の花ロード」を駆け抜けるマラソン大会等が人気を呼び、毎年、県外客も含め大勢が参加。

平成18年で16回目の開催となる。

菜の花フェスティバルのイベントの一つ、「マラソン大会」



種まき

菜の花トラストin横浜町

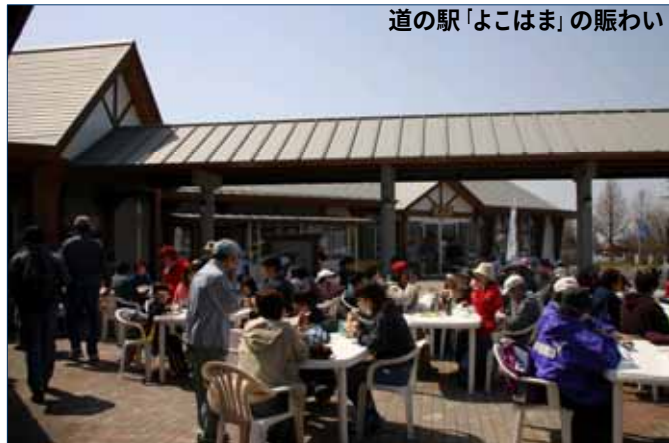
「菜の花トラストin横浜町」は、横浜町の日本一の菜の花を守り育てる目的に賛同する地元住民で構成され、「休耕地を菜の花畑に大変身プロジェクト」を毎年実施。当プロジェクトでは、子供から大人まで様々な年代の人が集まり、休耕地の整地やナタネ刈り、耕作作業などを実施。

菜の花を使った商品を数多く開発

商工会、農協、漁協、森林組合、婦人会を中心に「菜の花ドーナツ」など約100種類もの菜の花を使った商品を開発し、「道の駅よこはま」を拠点として通年販売。観光客等にも大好評。

さらに今年2月、地場産品消費拡大、地域振興を目的に特産品加工センターが道の駅に併設。現在、町の加工団体により菜の花など地場品を使った新商品の開発等が行われ、商品が拡充。

道の駅「よこはま」の賑わい



菜の花サポーター

菜の花開花期間中の5月を中心に、一般募集された地域住民により構成される「菜の花サポーター」が、町の各観光施設や菜の花フェスティバル会場付近などで、日本一の菜の花の魅力、横浜町の魅力を観光客に紹介。

日本一の菜の花サポーターの皆さん



問い合わせ先

○横浜町役場 産業建設課

Tel : 0175-78-2111

<http://www.yokohama.e-shimokita.jp/>